

グローバルキャリアデザイン3 (FSP 北米)報告書

学部：法学部 学年：1年（参加当時）

1. 学習成果について

「留学するにしても、就職するにしても、外国で生活するということがどのような苦労を伴うことなのかを理解し、現時点では留学したいという希望を持っているが、それが自分に合っているのか、いつもとは異なる環境で自分はどれくらいの適応力があるのか、留学が本当に必要なことなのかなどを見極めてこれからの参考にできるような機会にしたい」という目標を持っていました。この目標は授業の課題として海外研修前になすべき行動で掲げたことと、海外研修とによって、成果を得たと思います。

● 海外研修前について

まず、海外研修前に学んだことは一口に留学といってもその種類や選択肢は幅広いということです。これは FSP における海外生活のイメージを広げようとして留学情報誌を読むことで気づいたのですが、私がそれまで考えていたのは交換留学と語学留学だけでした。しかし、そのほかにもワーキングホリデーや海外インターンシップといった選択肢が存在することを新たに発見しました。研修に行く前にセカンド・ステップにつながりそうなこれらの情報を得られたことで、研修中は幅広い選択肢を視野に入れてものを見ることができました。

● 留學生活のイメージを深め、留學の必要性を考へるという目標について

訪問した大学に交換留学生として来ていた日本人留学生の方々と交流する機会があり、アメリカの大学生活や大学生についてお話を聞くことができたのですが、特に印象に残ったのはアメリカの大学生の意識の高さについてでした。アメリカの大学生は課題が多いため猛勉強していることや授業中に寝ている人がほとんどいないこと、バイリンガルであることがあたりまえ、忙しいけど遊ぶ時に遊ぶ人が多いのはオンオフのきりかえがしっかりでき、効率よく作業できる人が多いからであること、アメリカでは分野に関するスキルがないと就職できないため、みんな勉強も進路に直結して考えているし、何をするにも将来のことについて考えていること、そのためほとんどの人がインターンシップを取るなど、本当に多くのことについて教えてもらいました。これらのことは後の行程でも様々な方がおっしゃっていましたが、これを聞いて私はもっと自分の専門や英語、第二外国語を勉強したいという気持ちになり、セカンド・ステップや今後の進路を考へるうえで影響を与えてもらいました。

また、協定校訪問では授業の見学やアメリカへの留学についてプレゼンをしていただく機会もありました。授業の見学は実際のアメリカの授業のスタイルや学生の様子などを見ることができたため、留学体験記や情報誌などを読むよりも数倍、留学のイメージを深めることができました。

企業訪問では、アメリカで生活するうえでの日本との違いと留学中の経験に焦点を当

ててお話をうかがいました。マイノリティであったために苦労したことや社内でのコミュニケーションの取り方の違い、慣れるまでにかかった期間など多くのことを学ぶことができました。今回訪問した方々は職種が様々で、ご本人が意図せずして海外赴任になった方もいらっしゃる、海外で働こうと決めていた方もいらっしゃるため、海外で働くということへのイメージはなかなかつかみづらいところがありました。しかし、皆さんに共通していたのは自分がやりたいことがわかっていることだと感じました。なので、留学というならまだしも、海外で働くというのは自分が何をしたいのかわかっていないと難しいことだと思いました。

- 適応力について

時差ボケが心配されましたが、時間に合わせて睡眠をきちんととるようにしたからか思いのほか影響はありませんでした。また、同じく心配していた食生活については、当初は小麦ばかりで量も多いためなかなか上手にバランスよく食事をとれませんでした。慣れてくるとお米を売っているテイクアウトのお店を見つけることができるなど研修中の2週間は食事が原因で体調を崩すこともなく乗り切ることができました。ただ、予算に余裕がなければできないことかもしれないので、実際に留学することになった場合は、行く前に自炊ができるようになっておいたほうが良いと感じました。予想外に適応しづらかったことはシャワー文化でした。ホテルは乾燥していたためすぐに乾き、体調を崩すことはありませんでしたが、慣れるには時間がかかりそうだと感じました。また、アメリカはあまりせかせかせず、大雑把なところがあり人の目を気にしすぎずに歩ける雰囲気のある場所だったので、自分を見つめなおすきっかけにもなりました。

最後に、参加する前は留学について全然考えが足りていなかったことを実感しました。何かを決める前にはたくさんの情報を事前に集めて、できることなら実際に見てみるのが大切であることに気づきました。さらにこれからの大学生活をどう過ごしていきたくかを深く考えるきっかけを与えてもらいました。

2. セカンド・ステップに向けての行動計画について

- 学部2年生、3年生の長期休暇中 短期で語学留学(英語)

下記の今後の進路についてでも述べたように、私は何を勉強したいのかまだ明確ではなく、学部で資格試験に向けてしっかり勉強したいと考えているため、海外の大学で学ぶ目的をしっかり持たなくてはならない大学への交換留学は現時点で必要ないと感じました。しかし、このプログラムの中でアメリカの街を歩いているときに、親切にしてくれる人や困った時に助けてくれた人にろくにお礼も言えないような場面が多々あり、自分の英語力のなさを実感するとともに、もっと英語で会話をして自分の感情を伝えられるようになりたいと思うようになりました。そこで、現在は短期(一か月程)で語学留学を考えています。

- 大学生の長期休暇中 アメリカ以外への海外旅行

私はこのプログラムで、初めてメインランドにわたりました。以前ハワイに数回行ったことがあったのでアメリカ慣れしているつもりでしたが、リゾートとメインランドの街では人の様子や交通機関、外国人の多さなどの点で大きく異なっていました。また、家族に頼りっぱなしだったのとは違い、ある程度自分の力で買い物や公共交通機関を利用しなければいけなかったのもその土地の習慣や日本との違いに気づきやすく、視野も広がりやすかったように感じました。アメリカ国内でもこれ程の違いを経験できたのだから、他の国も実際に見ることができればさらに視野を広げることができるのではないかと思います。私はアメリカにしか行ったことがないので、それだけで海外をイメージしないためにも様々な国を、それも一度はアジアを訪れてみたいと思いました。本当は先進国ばかり訪れたいという気持ちもあるのですが、それだけでは先進国のような状態があたりまえだと考えてしまうかもしれないと思ったからです。また、できるなら頼りすぎてしまう家族とではなく友人と行くことができるとよいなと思いました。

- 学部2年生のうち(夏季休業中等)に TOEIC を経験し、学部3年生までにスコア 650 点以上

私が現時点で目指したいと思っている大学院に試験に TOEIC のスコアが一部使用されるため、受験対策という面もありますが、日本で英語を勉強するにあたっての指標としての面もあると思います。まだ一度も TOEIC を受験したことがないので受験してみたらでない具体的な目標は持てないと思いますが、インターネットなどで調べた結果、標準よりも少し高い点数なのかなと思われた 650 点というスコア目標を設定しました。

3. 今後の進路について

海外研修から帰国した時点では、このプログラムに参加したことで、専門分野の資格試験に向けて勉強を頑張ってみようかなという漠然とした目標は持つことができました。しかし、自分がなぜそうしたいのか、将来どんな仕事をしたいのかなどは明確にすることはできませんでした。まだ自分の学部の専門について学習していなかったことや将来についての情報収集が必要だということ、海外研修に行く前に気づいていなかったことなどが原因かもしれません。ですが、このプログラムでアメリカの大学生の意識の高さを目の当たりにし、日本の大学生は全然勉強していないということを知り、私も何のために大学で勉強しているのかを考え直すきっかけになりました。また、勉強したいという気持ちもとても高まりました。訪問先で皆さんが口をそろえて仰っていたことに専門性が大切だということがありました。私は法学部生なので具体的な目標を持てるまでは、自分がやりたいことについて考えながら学部の勉強を真剣にして、専門性を高めていこうと決心しました。その一方で自分の所属する学部の分野だけに選択肢を狭めないようにというアドバイスもいただいたので、広い視野で進路を考えるように気をつけたいと思います。

4. 自由課題活動などで得られたこと（平日や週末のプログラム外の時間を使い、独自に設定し

た課題に取り組むもの)

自由課題活動でも留學生活のイメージを深めようとアメリカの習慣や日本との違いなどに注意して歩いていました。そこでたくさん気づいたことがありました。たとえば、優しさの表現の仕方です。公共交通機関に乗っているときに降りるべき駅に到着したのに、気づくのに遅れてドアが閉まってしまう困っていましたが、周りの人が一人だけではなく何人もドアの開け方を親切に教えてくれました。また、地図を広げて話し合っていたり、目の不自由な女の子が行きたい方向に行けなくて困っていたりすると、「どこに行きたいの？」と必ず声をかけてくれる方がいるなど、すぐに親切を行動に移せる人が多いなということに気づきました。逆に日本では、心の中では声をかけてあげようかと思ってもなかなか声をかけることができない人が私を含めて多いと感じます。アメリカ人は優しい、日本人は優しくないというわけでは決していないと思います。ただ、アメリカには気楽に声をかけられる雰囲気があると感じました。他にもスーパーやお店での買い物はどんなものがよく食べられているのか、どれくらいのサイズが一般的なのかなど、本を読むだけではなかなか想像がつかないようなアメリカの習慣を学んだり、イメージを広げる点でとても参考になりました。実際に自分の目で見て感じることの大切さを改めて感じました。

5. FSP 参加を考えている人へのメッセージ

漠然と留學にあこがれている、留學したいと思っているけれどイメージがわからない人や迷っている人、海外に一人で行くのがまだ不安な人はぜひ FSP に参加してみることをお勧めします。留學したいと考えている人には大学を訪問して実際に現地の大学生の様子を見ることができるので、留學のイメージを具体的に持つことができます。また、授業を見学できる機会もあるかもしれません。今回の FSP 北米では、留學する前に準備しておいたほうが良いことや大学側の留學生のサポート体制についてお話してもらった機会もありました。

海外に一人で行くのが不安だという人や海外が初めての人は、集団で行動できる点が魅力だと思います。大学から引率の方がついてくださり、海外へ行く前に自分で手配しなければいけないことはほぼありません。しかし、食料調達等でスーパーに買い物に行くなど海外でも一人でできたという経験も増えるので、将来海外へ行く際の自信も持つことができます。私自身、このプログラムに参加しただけでは次に一人で海外へ行けるという自信はつかないだろうと思っていました。ですが、確信を持てるほどではなくても、実際に目にして体験したという事実は確実に海外へのハードルを下げていると感じます。

私が FSP に参加していてやっていたよかったと思ったことは、学んだことや頭に浮かんだ考え、新たな発見などを毎日ノートに書いていくことです。自分が何を得たのか、何を考えていたのか、何が印象的だったのかなど、振り返る際にとっても役に立ちました。FSP では現地で働く方のお話や大学訪問などから学ぶことがたくさんあります。そこからさらに考えさせられたり、考えがうまれたりもします。街を歩いているだけでも様々な発見があります。しかし、次々と情報が入って記憶が更新され、研修の後半には前半

で得たことを忘れてしまいます。 せっかくの貴重な体験を自分の一部にするためにもやっておくといいと思います。私がノートに書き始めたのは海外研修からでしたが、準備授業や出発に向けて準備している段階からやっていたなら、もっと有意義なものにできたのではないかと思いました。

留学に向けてだけでなく、自分についても新たな発見を得られると思います。迷っているならぜひ参加してみることをお勧めします。